



Cloud Manager リリースノート

Release Notes

NetApp
May 03, 2022

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/cloud-manager-relnotes/index.html> on May 03, 2022. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

Cloud Manager リリースノート	1
Cloud Manager での最新の変更点	2
管理機能	2
Azure NetApp Files の特長	3
ONTAP 対応の Amazon FSX	4
アプリケーションテンプレート	5
クラウドバックアップ	5
クラウドデータの意味	7
Cloud Sync	8
クラウド階層化	11
Cloud Volumes ONTAP	12
Cloud Volumes Service for GCP	15
コンピューティング	15
グローバルファイルキャッシュ	16
Kubernetes	17
監視	18
オンプレミスの ONTAP クラスタ	18
ランサムウェアからの保護	19
レプリケーション	20
SnapCenter サービス	20
リリースノートインデックス	21
ストレージ	21
データサービス	21
管理	21

Cloud Manager リリースノート

Cloud Manager での最新の変更点

Cloud Manager プラットフォームで行われた クラウド サービス の最新の変更点について説明します。詳細については、を参照してください ["リリースノート的全セット"](#) 個々のサービスごと。

管理機能

このセクションでは、Cloud Manager の管理機能に関連する新機能として、アカウント、コネクタ、クラウドプロバイダのクレデンシャルなどについて説明します。

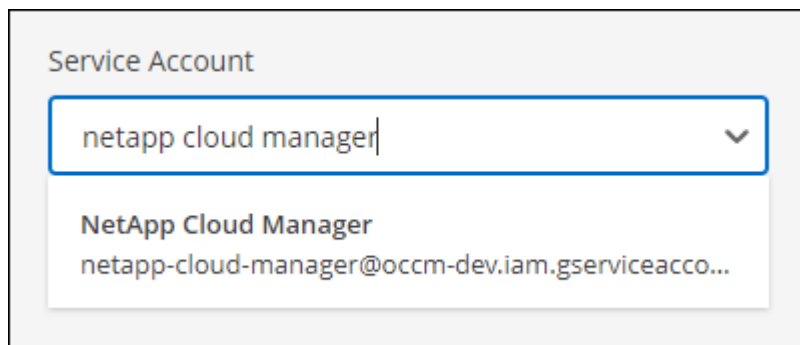
2022年5月2日

コネクタ3.9.18

- Connectorは、次のGoogle Cloudリージョンでサポートされるようになりました。
 - デリー（アジア-サウス2）
 - メルボルン（オーストラリア-スモアカス2）
 - ミラノ（ヨーロッパ-西8）
 - サンティアゴ（サウスアメリカ-西1）

["サポートされているリージョンの完全なリストを表示します"](#)

- Connectorで使用するGoogle Cloudサービスアカウントを選択すると、Cloud Managerに各サービスアカウントに関連付けられているEメールアドレスが表示されるようになりました。メールアドレスを表示すると、同じ名前を共有するサービスアカウントを区別しやすくなります。



- をサポートするOSでVMインスタンス上のGoogle CloudのConnectorを認定しました ["シールドVM機能"](#)
- このリリースのコネクタには、Cloud Volumes ONTAP の機能拡張も含まれています。 ["これらの拡張機能について説明します"](#)
- ConnectorでCloud Volumes ONTAP を導入するには、新しいAWS権限が必要です。

単一のAvailability Zone（AZ；アベイラビリティゾーン）にHAペアを導入する際にAWS分散配置グループを作成するためには、次の権限が必要です。

```
"ec2:DescribePlacementGroups",  
"iam:GetRolePolicy"
```

これらの権限は、Cloud Managerによる配置グループの作成方法を最適化するために必要になります。

Cloud Managerに追加したAWSクレデンシャルの各セットに、これらの権限を必ず付与してください。最新の権限のリストは、[で確認できます "Cloud Manager のポリシーのページです"](#)。

2022 年 4 月 3 日

コネクタ**3.9.17**

- Cloud Manager に、環境で設定した IAM ロールを割り当てることでコネクタを作成できるようになりました。この認証方式は、AWS のアクセスキーとシークレットキーを共有する場合よりも安全です。

["IAM ロールを使用してコネクタを作成する方法について説明します"](#)。

- このリリースのコネクタには、Cloud Volumes ONTAP の機能拡張も含まれています。 ["これらの拡張機能について説明します"](#)

2022 年 2 月 27 日

コネクタ**3.9.16**

- Google Cloud で新しいコネクタを作成すると、Cloud Manager に既存のすべてのファイアウォールポリシーが表示されるようになります。以前は、Cloud Manager にはターゲットタグがないポリシーは表示されませんでした。
- このリリースのコネクタには、Cloud Volumes ONTAP の機能拡張も含まれています。 ["これらの拡張機能について説明します"](#)

Azure NetApp Files の特長

2021 年 4 月 11 日

ボリュームテンプレートのサポート

新しいアプリケーションテンプレートサービスを使用すると、Azure NetApp Files のボリュームテンプレートを設定できます。テンプレートを使用すると、容量プール、サイズ、プロトコル、VNet、ボリュームを配置するサブネットなど、一部のボリュームパラメータがテンプレートにすでに定義されているため、ジョブの簡易化に役立ちます。パラメータがすでに事前定義されている場合は、次のボリュームパラメータに進みます。

- ["アプリケーションテンプレートと、環境での使用方法について説明します"](#)
- ["テンプレートから Azure NetApp Files ボリュームを作成する方法について説明します"](#)

2021 年 3 月 8 日

サービスレベルを動的に変更

ワークロードのニーズを満たし、コストを最適化するために、ボリュームのサービスレベルを動的に変更できるようになりました。ボリュームは、ボリュームに影響を及ぼすことなく、もう一方の容量プールに移動されます。

["ボリュームのサービスレベルを変更する方法について説明します"](#)。

2020 年 8 月 3 日

Azure NetApp Files のセットアップと管理

Azure NetApp Files は Cloud Manager から直接セットアップおよび管理できます。Azure NetApp Files 作業環境を作成したら、次の作業を実行できます。

- NFS ボリュームと SMB ボリュームを作成
- 容量プールとボリューム Snapshot を管理します

Cloud Manager では、ボリューム Snapshot を作成、削除、リストアできます。新しい容量プールを作成してそのサービスレベルを指定することもできます。

- サイズを変更し、タグを管理してボリュームを編集します。

以前のデータ移行機能は、Cloud Manager から Azure NetApp Files を直接作成および管理できるようになりました。

ONTAP 対応の Amazon FSX

2022 年 2 月 27 日

IAM の役割を引き受けます

ONTAP 作業環境向け FSX を作成する場合、Cloud Manager が ONTAP 作業環境用の FSX を作成すると想定できる IAM ロールの ARN を指定する必要があります。以前は、AWS アクセスキーを指定する必要がありました。

["FSX for ONTAP のアクセス許可を設定する方法について説明します"](#)。

2021 年 10 月 31 日

Cloud Manager API を使用して iSCSI ボリュームを作成

Cloud Manager API を使用して FSX for ONTAP 用の iSCSI ボリュームを作成し、作業環境で管理できます。

ボリュームの作成時にボリュームの単位を選択します

可能です ["ボリュームの作成時にボリュームの単位（GiB または TiB）を選択します"](#) FSX for ONTAP の場合。

2021 年 10 月 4 日

Cloud Manager を使用して **CIFS** ボリュームを作成

できるようになりました。"[Cloud Manager を使用して、FSX for ONTAP に CIFS ボリュームを作成します](#)"。

Cloud Manager を使用してボリュームを編集

できるようになりました。"[Cloud Manager を使用して ONTAP ボリュームの FSX を編集します](#)"。

アプリケーションテンプレート

2022 年 3 月 3 日

テンプレートを作成して、特定の作業環境を検索できるようになりました

「既存のリソースを検索」アクションを使用すると、作業環境を特定してから、ボリュームの作成などの他のテンプレートアクションを使用して、既存の作業環境に対して簡単にアクションを実行できます。"[詳細については、こちらをご覧ください](#)"。

AWS で **Cloud Volumes ONTAP HA** 作業環境を作成できる

AWS での Cloud Volumes ONTAP 作業環境の作成は、既存のサポートが拡張されて、シングルノードシステムに加えて高可用性システムも作成できるようになりました。"[Cloud Volumes ONTAP 作業環境用のテンプレートの作成方法については、を参照してください](#)"。

2022 年 2 月 9 日

テンプレートを作成して特定の既存ボリュームを検索し、**Cloud Backup** を有効にすることができます

新しい「リソース検索」アクションを使用すると、Cloud Backup を有効にするすべてのボリュームを特定し、Cloud Backup アクションを使用してそれらのボリュームのバックアップを有効にできます。

現在サポートされているのは、Cloud Volumes ONTAP 上のボリュームとオンプレミスの ONTAP システムです。"[詳細については、こちらをご覧ください](#)"。

2021 年 10 月 31 日

これで、同期関係にタグを付けて、簡単にアクセスできるように関係をグループ化または分類できます

"[リソースタグ付けの詳細については、こちらをご覧ください](#)"。

クラウドバックアップ

2022年5月2日

Google Cloud Storageのバックアップファイルで検索とリストアがサポートされるようになりました

ボリュームとファイルをリストアするための検索とリストアの方法は、AWSにバックアップファイルを格納するユーザ向けに4月に導入されました。Google Cloud Storageにバックアップファイルを保存するユーザーがこの機能を使用できるようになりました。"[Search & Restoreを使用してボリュームとファイルをリストアする方法を参照してください](#)"。

Kubernetesクラスタ内に新しく作成されたボリュームにバックアップポリシーが自動的に適用されるように設定します

Cloud Backupをアクティブ化したあとにKubernetesクラスタに新しい永続ボリュームを追加した場合は、以前にそれらのボリュームのバックアップを忘れずに設定する必要があります。新しく作成したボリュームに自動的に適用するポリシーを選択できます。このオプションは、セットアップウィザードで新しいKubernetesクラスタまたはに対してCloud Backupをアクティブ化するときにあります。"[\[バックアップ設定ページから選択します\]](#) Cloud Backupをすでにアクティブ化しているクラスタの場合

Cloud Backupを作業環境でアクティブ化するには、ライセンスが必要になります

Cloud Backupのライセンスの実装方法には、次の点が変更されています。

- Cloud Backupをアクティブするには、クラウドプロバイダからPAYGO Marketplaceサブスクリプションに登録するか、ネットアップからBYOLライセンスを購入する必要があります。
- 30日間無償トライアルは、クラウドプロバイダがPAYGOサブスクリプションを使用している場合にのみ利用できます。BYOLライセンスを使用している場合は利用できません。
- 無料トライアルは、Marketplaceのサブスクリプションが開始された日から開始されます。たとえば、Cloud Volumes ONTAP システムのMarketplaceサブスクリプションを30日間使用した後で無料トライアルを有効にした場合、クラウドバックアップトライアルは利用できません。

"[使用可能なライセンスモデルの詳細については、こちらをご覧ください](#)"。

2022 年 4 月 4 日

Cloud Backup for Applications 1.1.0（**SnapCenter** 搭載）の **GA** 版になりました

新しい Cloud Backup for Applications 機能を使用すると、Oracle および Microsoft SQL の既存のアプリケーション整合性スナップショット（バックアップ）を、オンプレミスのプライマリストレージから AWS S3 または Azure Blob のクラウドオブジェクトストレージにオフロードできます。

必要に応じて、クラウドからオンプレミスヘデータをリストアできます。

"[オンプレミスアプリケーションのデータをクラウドで保護する方法については、こちらをご覧ください](#)"。

すべての **ONTAP** バックアップファイルでボリュームまたはファイルを検索するための新しい検索とリストア機能

ボリューム名またはフルボリューム名、部分的またはフルファイル名、サイズ範囲、および追加の検索フィルタを使用して、すべての ONTAP バックアップファイル * にまたがるボリュームまたはファイルを検索できるようになりました。これは、どのクラスタまたはボリュームがデータのソースであるかがわからない場合に、リストアするデータを見つけるための新しい優れた方法です。"[検索とリストアの使用方を説明します](#)"。

2022 年 3 月 3 日

GKE Kubernetes クラスタから **Google Cloud** ストレージに永続ボリュームをバックアップする機能

ネットアップ Astra Trident がインストールされている GKE クラスタで、Cloud Volumes ONTAP for GCP をクラスタのバックエンドストレージとして使用している場合は、Google Cloud ストレージとの間で永続的ボリュームのバックアップとリストアを行うことができます。"詳細については、[こちらをご覧ください](#)"。

Cloud Data Sense を使用して **Cloud Backup** ファイルをスキャンするベータ機能は、本リリースでは廃止されました

クラウドデータの意味

2022 年 4 月 5 日

オーストラリアの個人データは、データセンスで新たに 4 種類識別できます

データセンスでは、オーストラリア TFN (税ファイル番号)、オーストラリア運転免許証番号、オーストラリア医薬品番号、オーストラリアパスポート番号を含むファイルを識別し、分類することができます。"データで特定できるすべての種類の個人データを表示します"。

グローバル **Active Directory** サーバを **LDAP** サーバとして使用できるようになりました

Data Sense と統合するグローバル Active Directory サーバは、以前にサポートされていた DNS サーバに加えて、LDAP サーバにすることができます。"詳細については、[こちらをご覧ください](#)"。

2022 年 3 月 15 日

新しいフィルタ：特定のユーザまたはグループに読み取りまたは書き込み権限があるファイルを表示します

「ユーザ / グループの権限」という新しいフィルタが追加され、特定のユーザまたはグループの読み取り / 書き込み権限を持つファイルを一覧表示できるようになりました。ユーザ名またはグループ名の一部または一部を指定できます。この機能は、Cloud Volumes ONTAP、オンプレミス ONTAP、Azure NetApp Files、Amazon FSX for ONTAP、およびファイル共有のボリュームで使用できます。

データセンスを使用すると、**SharePoint** アカウントと **OneDrive** アカウントのファイルに対する権限を決定できます

データセンスでは、OneDrive アカウントと SharePoint アカウントでスキャン中のファイルに存在するアクセス許可を読み取ることができます。この情報は、ファイルの [調査] ペインの詳細、およびガバナンスダッシュボードの [アクセス許可を開く] 領域に表示されます。

追加の 2 種類の個人データは、データセンスで識別できます

- ・フランスの INSEE - INSEE コードは、フランス国立統計経済研究所 (INSEE) がさまざまなエンティティを識別するために使用する数値コードです。
- ・パスワード - この情報は、英数字の文字列の横にある「password」という単語を検索して、近接性検証を使用して識別されます。見つかったアイテムの数は、コンプライアンスダッシュボードの [個人の結果] の下に表示されます。[調査] ペインでパスワードを含むファイルを検索するには、[フィルタ * 個人データ] > [パスワード *] を使用します。

ダークサイトに導入した場合、 **OneDrive** と **SharePoint** のデータをスキャンできます

インターネットにアクセスできないオンプレミスサイトのホストに Cloud Data Sense を導入した場合、OneDrive アカウントまたは SharePoint アカウントからローカルデータをスキャンできるようになりました。
["次のエンドポイントへのアクセスを許可する必要があります。"](#)

Cloud Data Sense を使用して **Cloud Backup** ファイルをスキャンするベータ機能は、本リリースでは廃止されました

2022 年 2 月 9 日

Microsoft SharePoint オンラインアカウントのスキャンのサポートが追加されました

SharePoint サイトからドキュメントやファイルをスキャンするために、SharePoint オンラインアカウントをデータセン스에追加できるようになりました。["SharePoint アカウントをスキャンする方法をご覧ください"](#)。

データセン스では、データソースからターゲットの場所にファイルをコピーし、それらのファイルを同期できます

これは、データを移行していて、ファイルに加えられた最後の変更を確認する場合に役立ちます。このアクションではを使用します ["NetApp Cloud Sync の略"](#) データをソースからターゲットにコピーおよび同期する機能。

["ファイルのコピーおよび同期方法を参照してください"](#)。

dsar レポートの新しい言語サポート

データ主体の名前を検索して Data Subject Access Request (dsar) レポートを作成するときに、ドイツ語とスペイン語がサポートされるようになりました。このレポートは、企業が GDPR または同様のデータプライバシー法を遵守する必要がある場合に役立つように作成されています。

追加の **3** 種類の個人データは、データセン스で識別できます

データセン스では、ファイル内にフランス語のソーシャルセキュリティ番号、フランス語の ID、フランス語のドライバーライセンス番号が表示されるようになりました。["データがスキャンで識別するすべての個人データタイプのリストを表示します"](#)。

コネクタへのデータセン스通信のためにセキュリティグループポートが変更されました

Cloud Manager Connector のセキュリティグループでは、セキュリティを強化するために、データセン스インスタンスとの間のインバウンドトラフィックとアウトバウンドトラフィックにポート 80 ではなくポート 443 が使用されます。この時点では両方のポートは開いたままなので、問題はありませんが、将来のリリースではポート 80 が廃止される予定であるため、以前のどの環境でもセキュリティグループを更新する必要があります。

Cloud Sync

2022年5月1日

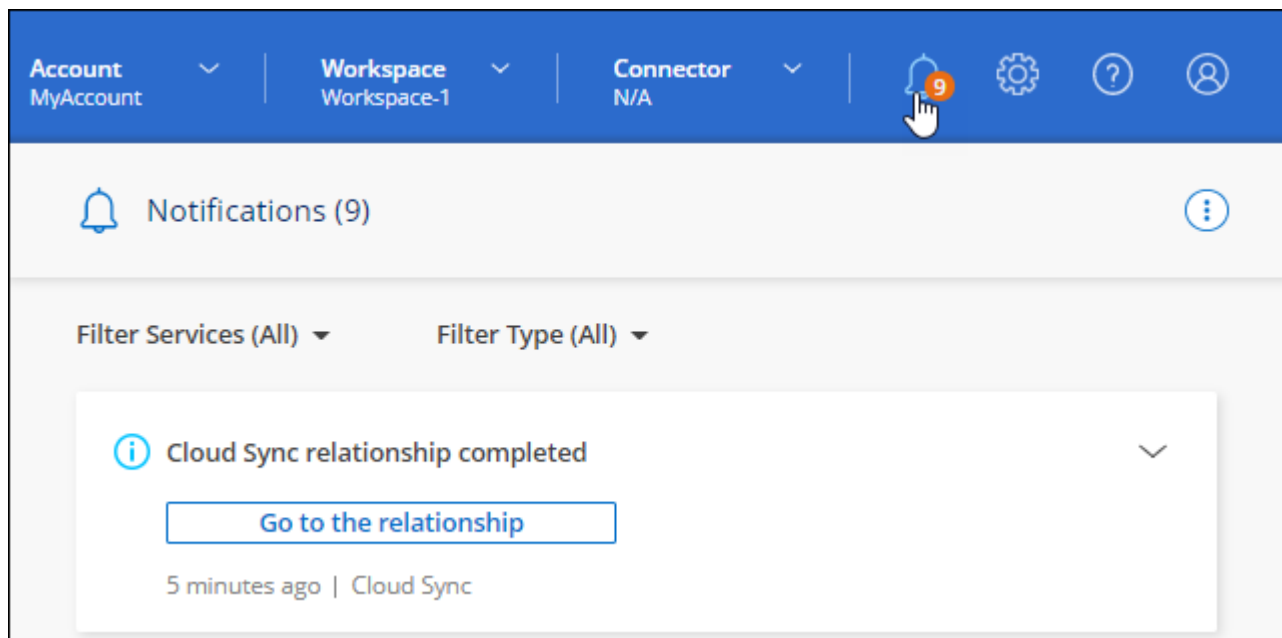
同期タイムアウト

新しい* Sync Timeout *設定を同期関係に使用できるようになりました。この設定を使用すると、指定した時間数または日数内に同期が完了していない場合にCloud Sync でデータの同期をキャンセルするかどうかを定義できます。

["同期関係の設定の変更の詳細については、こちらをご覧ください"](#)。

通知

新しい* Notifications *設定を同期関係に使用できるようになりました。この設定を使用すると、Cloud Sync 通知をCloud Managerの通知センターで受信するかどうかを選択できます。データの同期が成功した場合、データの同期が失敗した場合、データの同期がキャンセルされた場合の通知を有効にできます。



["同期関係の設定の変更の詳細については、こちらをご覧ください"](#)。

2022 年 4 月 3 日

データブローカーグループの機能拡張

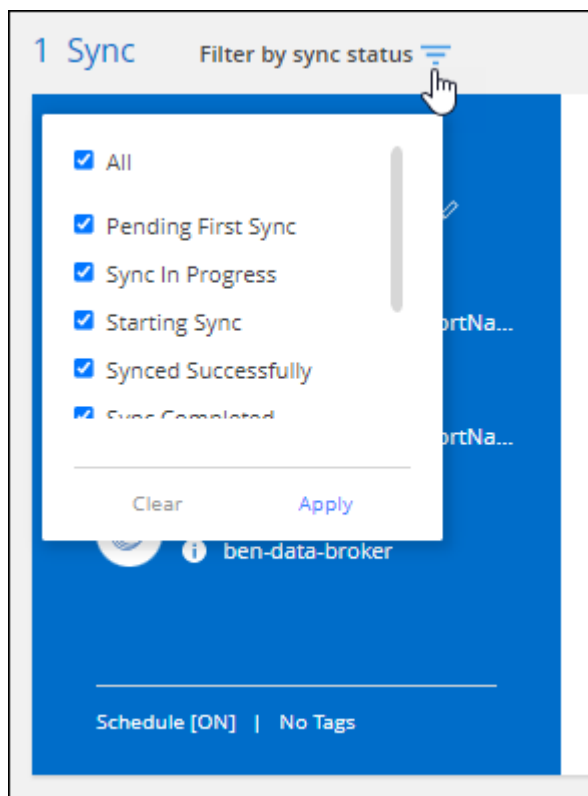
データブローカーグループには、次のような機能拡張が行われました。

- データブローカーを新規または既存のグループに移動できるようになりました。
- データブローカーのプロキシ設定を更新できるようになりました。
- 最後に、データブローカーグループを削除することもできます。

["データブローカーグループの管理方法について説明します"](#)。

ダッシュボードフィルタ

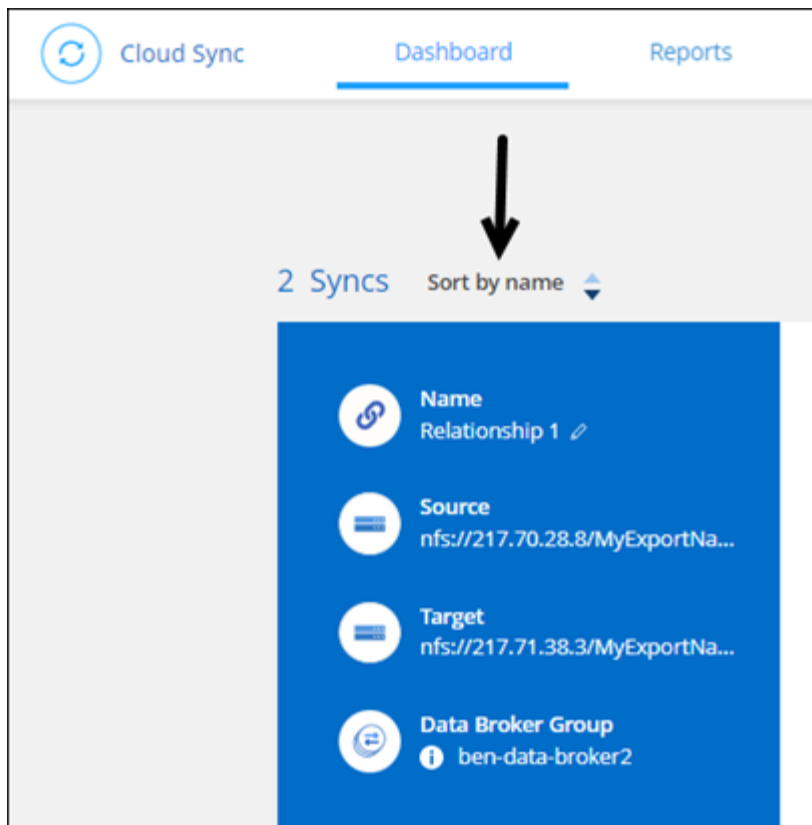
Sync Dashboard の内容をフィルタリングして、特定のステータスに一致する同期関係を簡単に見つけることができるようになりました。たとえば、ステータスが「失敗」の同期関係をフィルタリングできます



2022 年 3 月 3 日

ダッシュボードでソートします

ダッシュボードを同期関係名でソートできるようになりました。



オプションを示すスクリーンショット。"]

データセンスの統合の強化

以前のリリースでは、Cloud Sync とクラウドデータセンスの統合を導入しました。この更新プログラムでは、同期関係を簡単に作成できるように統合を強化しました。Cloud Data Sense からデータ同期を開始すると、すべてのソース情報が 1 つの手順で表示されるため、重要な情報をいくつか入力するだけで済みます。

The screenshot shows the 'Sync Relationship' configuration screen with a progress bar indicating four steps: 1. Data Sense Integration (active), 2. Data Broker Group, 3. NFS Server, and 4. Directories. The 'Selected Data Sense Source' section displays the following configuration:

Azure NetApp Files	/cifs1 Source	1.1.1.1 Host	cifs Working Environment	\\1.1.1.1\\cifs1 Volume
--------------------	------------------	-----------------	-----------------------------	----------------------------

Below this, the text 'A few more things before we continue' is displayed. The 'Define SMB Credentials' section includes input fields for:

- User Name
- Password
- Domain (Optional)

クラウド階層化

2022 年 4 月 4 日

Amazon S3 Glacier Instant Retrieval ストレージクラスが使用可能になりました

Cloud Tiering をセットアップする際に、アクティブでないデータが特定の日数後に `_Standard_storage` クラスから `_Glacier Instant Retrieve_` に移行するようにライフサイクルルールを設定できるようになりました。これにより、AWS インフラのコストを削減できます。

Cloud Tiering は、**ONTAP Select** システムで完全に認定されています

AFF システムと FAS システムのデータを階層化するだけでなく、ONTAP Select システムからクラウドストレージにもアクセス頻度の低いデータを階層化できるようになりました。

2021 年 9 月 2 日

FabricPool ライセンスは **Cloud Tiering BYOL** ライセンスに置き換えられています

Cloud Tiering サービスを使用した、Cloud Manager でサポートされる階層化構成に、新しい * Cloud Tiering * ライセンスが追加されました。複数のオンプレミス ONTAP クラスタにわたって使用できるフローティングライセンスです。過去に使用したことのある * FabricPool * ライセンスは、Cloud Manager でサポートされていない構成にのみ保持されます。

"[新しい Cloud Tiering ライセンスの詳細については、こちらをご覧ください](#)"。

オンプレミスの **ONTAP** クラスタから **S3** 互換のオブジェクトストレージにアクセス頻度の低いデータを階層化します

Simple Storage Service (S3) プロトコルを使用する任意の Object Storage サービスにアクセス頻度の低いデータを階層化できるようになりました。"[S3 互換オブジェクトストレージへのデータの階層化方法を参照してください](#)"。

2021 年 7 月 7 日

Connector は、データを **Azure BLOB** ストレージに階層化するときにオンプレミスで実行できます

Azure VNet にインストールされたコネクタを使用する必要はなくなりました。Azure BLOB ストレージにデータを階層化する場合は、オンプレミスのホストで Connector を実行できます。

Cloud Volumes ONTAP

2022年5月2日

コネクタの3.9.18リリースでは、次の変更が加えられました。

Cloud Volumes ONTAP 9.11.0

Cloud ManagerでCloud Volumes ONTAP 9.11.0の導入と管理が可能になりました。

"[このリリースのに含まれる新機能について説明します Cloud Volumes ONTAP](#)"。

メディアーターのアップグレードに関する機能拡張

Cloud ManagerによってHAペアのメディアーターがアップグレードされると、ブートディスクを削除する前に新しいメディアーターイメージが使用可能であるかどうかを検証されるようになりました。この変更により、アップグレードプロセスが失敗した場合でもメディアーターは正常に動作し続けることができます。

K8sタブが削除されました

K8sタブは以前では廃止されており、現在は削除されています。KubernetesとCloud Volumes ONTAP を併用する場合は、高度なデータ管理のための作業環境として、管理対象- Kubernetesクラスタをキャンバスに追加できます。

["Cloud ManagerでのKubernetesのデータ管理について説明します"](#)

Azureの年間契約

EssentialsパッケージとProfessionalパッケージは、年間契約を通じてAzureで利用できるようになりました。年間契約を購入するには、ネットアップの営業担当者にお問い合わせください。この契約は、Azure Marketplaceでのプライベートオファーとして提供されます。

ネットアップがお客様とプライベートオファーを共有したあとは、Azure Marketplaceでの作業環境の作成時にサブスクリプションするときに、年間プランを選択できます。

["ライセンスの詳細については、こちらをご覧ください"](#)。

S3 Glacierのインスタント検索

Amazon S3 Glacier Instant Retrievalストレージクラスに階層化データを格納できるようになりました。

["階層化データのストレージクラスを変更する方法について説明します"](#)。

コネクタに新しいAWS権限が必要です

単一のAvailability Zone (AZ; アベイラビリティゾーン) にHAペアを導入する際にAWS分散配置グループを作成するためには、次の権限が必要です。

```
"ec2:DescribePlacementGroups",  
"iam:GetRolePolicy"
```

これらの権限は、Cloud Managerによる配置グループの作成方法を最適化するために必要になります。

Cloud Managerに追加したAWSクレデンシャルの各セットに、これらの権限を必ず付与してください。最新の権限のリストは、[で確認できます "Cloud Manager のポリシーのページです"](#)。

新しいGoogle Cloudリージョンサポート

9.10.1リリース以降、Cloud Volumes ONTAP は次のGoogle Cloudリージョンでサポートされるようになりました。

- デリー (アジア-サウス2)

- メルボルン（オーストラリア-スモアカス2）
- Milan（Europe - west8）-シングルノードのみ
- Santiago（southamerica-west1）-シングルノードのみ

["Cloud Volumes ONTAP でサポートされるリージョンの完全なリストを表示します"](#)

Google Cloudでのn2標準16のサポート

Google CloudのCloud Volumes ONTAP では、9.10.1リリース以降のn2標準-16マシンタイプがサポートされます。

["Google CloudでCloud Volumes ONTAP がサポートされている構成を表示します"](#)

Google Cloudファイアウォールポリシーの機能強化

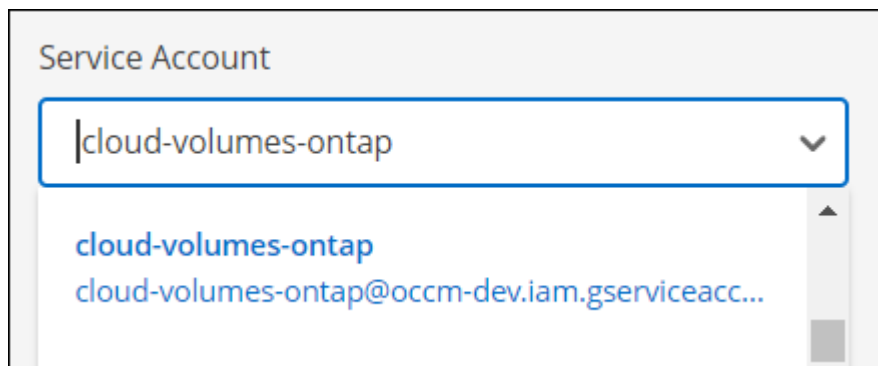
- Google CloudでCloud Volumes ONTAP HAペアを作成すると、VPC内の既存のすべてのファイアウォールポリシーがCloud Managerに表示されるようになりました。

以前は、Cloud Managerでは、ターゲットタグのないVPC -1、VPC -2、またはVPC -3のポリシーは表示されませんでした。

- Google CloudでCloud Volumes ONTAP シングルノードシステムを作成する際に、定義済みのファイアウォールポリシーで、選択したVPC内のトラフィックのみを許可するか（推奨）、すべてのVPC内のトラフィックを許可するかを選択できるようになりました。

Google Cloudサービスアカウントの機能強化

Cloud Volumes ONTAP で使用するGoogle Cloudサービスアカウントを選択すると、Cloud Managerに各サービスアカウントに関連付けられているEメールアドレスが表示されるようになりました。メールアドレスを表示すると、同じ名前を共有するサービスアカウントを区別しやすくなります。



2022 年 4 月 3 日

System Manager のリンクが削除されました

Cloud Volumes ONTAP 作業環境内から以前に利用可能だった System Manager のリンクを削除しました。

Cloud Volumes ONTAP システムに接続している Web ブラウザにクラスタ管理 IP アドレスを入力しても、System Manager に接続できます。 ["System Manager への接続に関する詳細情報"](#)。

WORM ストレージの充電

導入時の特別料金が期限切れになり、WORM ストレージの使用料が請求されます。WORM ボリュームのプロビジョニング済みの合計容量に基づいて、1 時間ごとに課金されます。この環境の新規および既存の Cloud Volumes ONTAP システムです。

["WORM ストレージの価格設定については、こちらをご覧ください"](#)。

2022 年 2 月 27 日

コネクタの3.9.16リリースでは、次の変更が加えられました。

ボリュームウィザードの再設計

特定のアグリゲートに * Advanced allocation * オプションからボリュームを作成するときに、新しいボリューム作成ウィザードを使用できるようになりました。

["特定のアグリゲートにボリュームを作成する方法について説明します"](#)。

Cloud Volumes Service for GCP

2020 年 9 月 9 日

Cloud Volumes Service for Google Cloud のサポート

Cloud Volumes Service for Google Cloud を Cloud Manager から直接管理できるようになりました。

- 作業環境をセットアップして作成
- Linux クライアントおよび UNIX クライアント用に、NFSv3 ボリュームと NFSv4.1 ボリュームを作成および管理します
- Windows クライアント用に SMB 3.x ボリュームを作成して管理します
- ボリューム Snapshot を作成、削除、およびリストアします

コンピューティング

2020 年 12 月 7 日

Cloud Manager と Spot の間のナビゲーション

Cloud Manager と Spot の間の移動が簡単になりました。

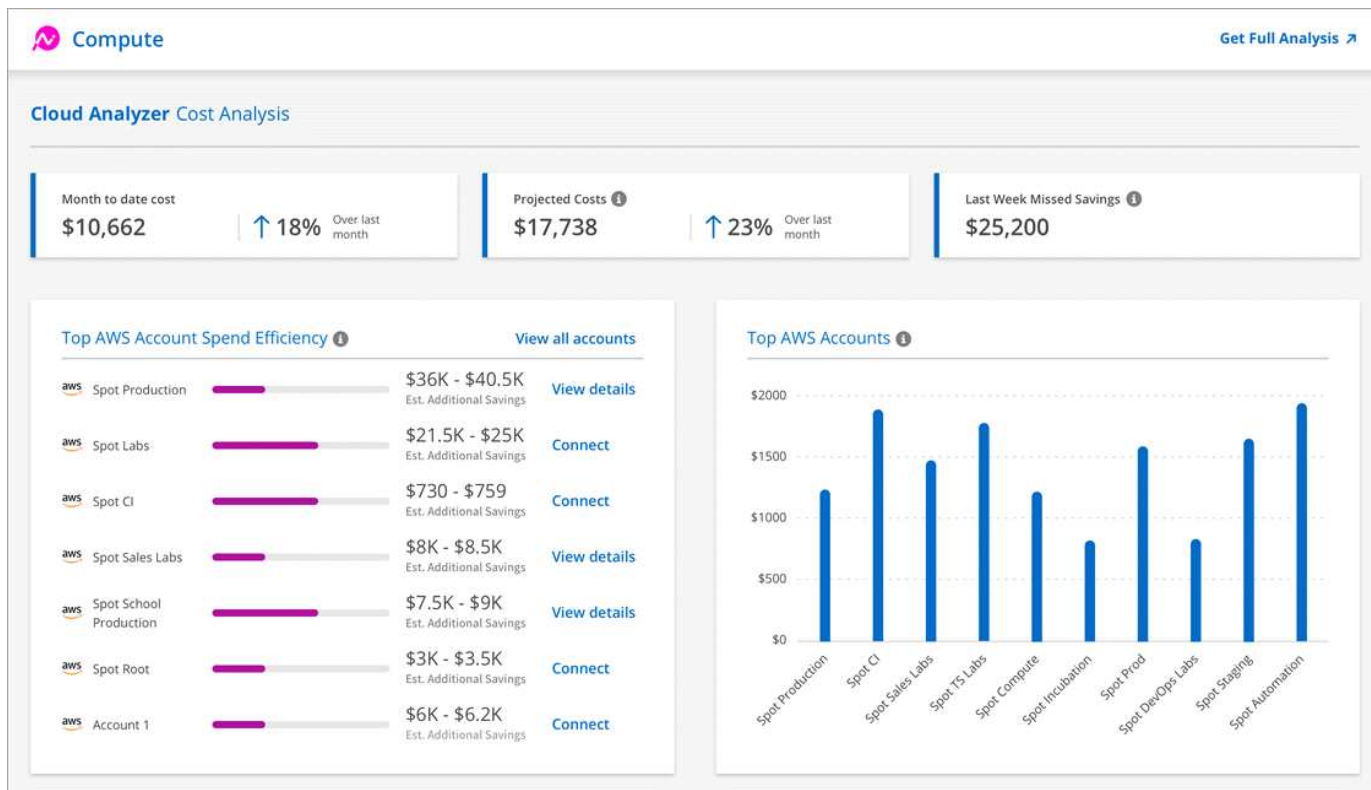
Spot の新しい「* ストレージ運用 *」セクションでは、Cloud Manager に直接移動できます。作業が完了したら、Cloud Manager の * Compute * タブから Spot に戻ることができます。

2020 年 10 月 18 日

コンピューティングサービスの概要

を活用して **"Spot の Cloud Analyzer の略"**Cloud Manager では、クラウドコンピューティング関連のコストを高水準で分析し、コスト削減の可能性を特定できるようになりました。この情報は、Cloud Manager の * Compute * サービスから入手できます。

"コンピューティングサービスの詳細については、こちらをご覧ください"。



グローバルファイルキャッシュ

2021 年 12 月 17 日 (バージョン 1.2.0)

OpenSSL モジュールがバージョン 1.1.1L にアップグレードされました。

これは最新バージョンであり、より安全です。このモジュールは、GFC エッジと GFC コア間のセキュアな通信に使用されます。

ログインインフラが強化されました。

2021 年 6 月 9 日 (バージョン 1.1.0)

「エッジ同期」機能が追加されました。

この機能では、リモートオフィスの複数のエッジが同期され、データは常にキャッシュ / ウォームに保存されます。ファイルを 1 つのエッジでフラッシュ / フェッチすると、Edge Sync に参加するすべてのエッジ上の同じファイルが更新され、キャッシュされます。のセクション 8.4 を参照してください "『NetApp Global File Cache User Guide』を参照してください" を参照してください。

OpenSSL モジュールがバージョン **1.1.1k** にアップグレードされました。

これは最新バージョンであり、より安全です。このモジュールは、GFC エッジと GFC コア間のセキュアな通信に使用されます。

ライセンス登録ページが更新されました。

GFC ライセンス登録ページに、ネットアップのサブスクリプションを通じてライセンスをアクティブ化したときに表示されるライセンス数が追加されました。

2021 年 3 月 21 日（バージョン 1.0.3）

GFC プロセスを **Windows Defender** から自動的に除外するためのソフトウェアインストーラのアップデート。

グローバルファイルキャッシュソフトウェアインストーラでは、すべての GFC プロセスが Windows Defender ソフトウェアのオンデマンドスキャンから除外されるようになりました。

新しい【ポリシー構成】タブが構成コンソールに追加されました。

この設定タブでは、GFC コアから事前入力ジョブを追加できます。

パフォーマンスと安定性を向上させながら、メモリ使用量を削減するようにソフトウェアを強化。

Kubernetes

2022 年 4 月 4 日

Cloud Manager のリソースページを使用して **Kubernetes** クラスタを管理

Kubernetes クラスタ管理の統合がクラスタ作業環境から直接強化されました。新しい"[クイックスタート](#)"すぐに運用を開始できます。

クラスタリソースのページで次の操作を実行できるようになりました。

- "[Astra Trident をインストール](#)"
- "[ストレージクラスを追加する](#)"
- "[永続ボリュームを表示します](#)"
- "[クラスタを削除](#)"
- "[データサービスを有効化](#)"

2022 年 2 月 27 日

Google Cloud で **Kubernetes** クラスタがサポートされます

Cloud Manager を使用して、Google Cloud で管理対象 Google Kubernetes Engine（GKE）クラスタと自己管理型 Kubernetes クラスタを追加および管理できるようになりました。

"[Google Cloud で Kubernetes クラスタを使用する方法をご確認ください](#)"。

2022 年 1 月 11 日

Azure で **Kubernetes** クラスタがサポートされます

Cloud Manager を使用して、Azure で管理対象 Azure Kubernetes クラスタ（AKS）と自己管理型 Kubernetes クラスタを追加および管理できるようになりました。

["Azure での Kubernetes クラスタの使用の開始"](#)

監視

2021 年 8 月 1 日

Acquisition Unit の名前に変更します

Acquisition Unit インスタンスのデフォルトの名前を CloudInsights - AU - _UUID_so に変更し、わかりやすい名前にしました（UUID は生成されたハッシュです）。

このインスタンスは、Cloud Volumes ONTAP 作業環境で監視サービスを有効にすると Cloud Manager によって導入されます。

2021 年 5 月 5 日

既存のテナントをサポート

既存の Cloud Insights テナントがある場合でも、Cloud Volumes ONTAP 作業環境で監視サービスを有効にできるようになりました。

無料トライアル移行

監視サービスを有効にすると、Cloud Manager は Cloud Insights の無償トライアルをセットアップします。29 日目に、計画は自動的に試用版から移行します ["Basic エディション"](#)。

2021 年 2 月 9 日

Azure でのサポート

Cloud Volumes ONTAP for Azure で監視サービスがサポートされるようになりました。

政府機関のサポート

監視サービスは、AWS および Azure の政府機関のリージョンでもサポートされます。

オンプレミスの **ONTAP** クラスタ

2022 年 2 月 27 日

「社内 **ONTAP**」タブはデジタルウォレットで使用できます。

オンプレミスの ONTAP クラスタのインベントリと、ハードウェアおよびサービス契約の有効期限を確認できるようになりました。クラスタに関するその他の詳細も確認できます。

"この重要なオンプレミスクラスタの情報を表示する方法を参照してください"。クラスタ用のネットアップサポートサイトのアカウント（NSS）が必要です。また、NSS のクレデンシャルを Cloud Manager アカウントに接続する必要があります。

2022 年 1 月 11 日

オンプレミスの **ONTAP** クラスタのボリュームに追加するタグは、**Tagging** サービスで使用できます。

ボリュームに追加するタグは、アプリケーションテンプレートサービスのタグ機能に関連付けられます。これにより、リソースの管理を整理して簡単にすることができます。

2021 年 11 月 28 日

オンプレミスの **ONTAP** クラスタ向けのボリューム作成ウィザードが簡易化されました

使いやすいようにボリューム作成ウィザードが再設計され、カスタムのエクスポートポリシーを選択できるようになりました。

ランサムウェアからの保護

2022 年 3 月 15 日

ビジネスクリティカルなデータの権限ステータスを追跡する新しいパネル

新しいパネル「ビジネスクリティカルなデータアクセス権分析」には、ビジネスに不可欠なデータのアクセス権ステータスが表示されます。これにより、ビジネスクリティカルなデータの保護状況を迅速に評価できます。"詳細については、[こちらをご覧ください](#)"。

[アクセス許可] 領域に **OneDrive** アカウントと **SharePoint** アカウントが含まれるようになりました

ランサムウェア対策保護ダッシュボードの [開く アクセス許可] 領域に、OneDrive アカウントと SharePoint アカウントでスキャンされるファイルに存在するアクセス許可が表示されるようになりました。

2022 年 2 月 9 日

新たなランサムウェア対策サービス

新しいランサムウェア防御サービスでは、サイバーセキュリティに関する関連情報を表示し、データがサイバー攻撃に対する復元力を評価することができます。また、データのセキュリティを強化するためのアラートと修正措置のリストも記載されています。

"この新しいサービスの詳細については、[こちらをご覧ください](#)"。

レプリケーション

2021 年 9 月 2 日

Amazon FSX for ONTAP のサポート

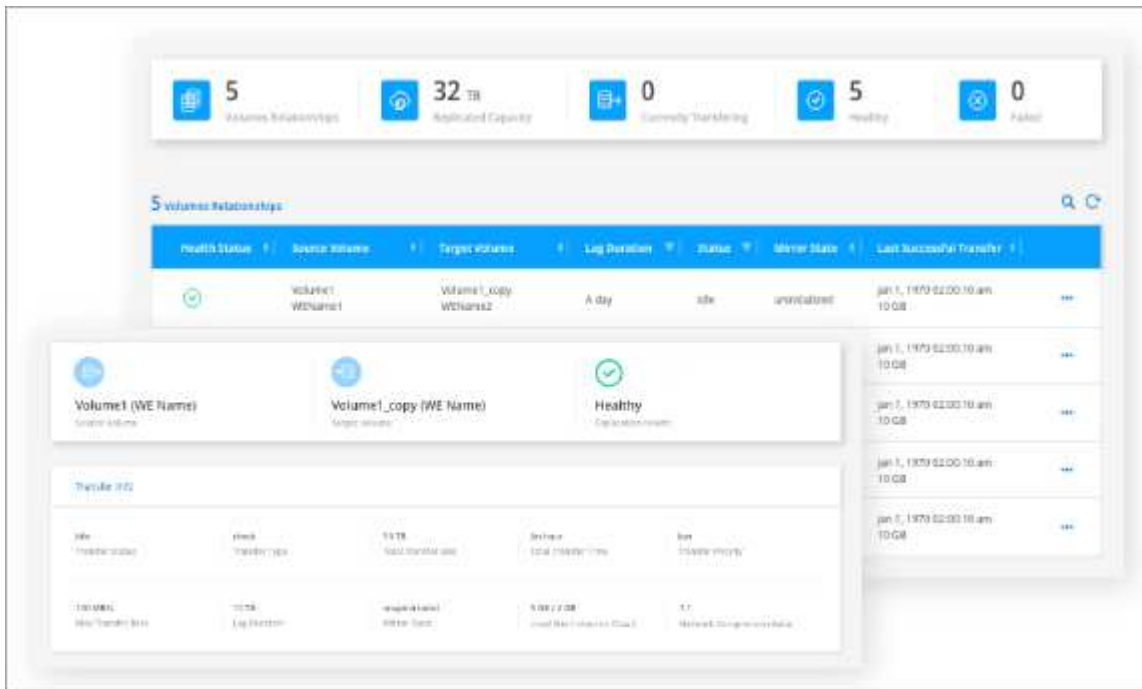
Cloud Volumes ONTAP システムまたはオンプレミスの ONTAP クラスタから ONTAP ファイルシステム用の Amazon FSX にデータをレプリケートできるようになりました。

["データレプリケーションの設定方法について説明します"](#)。

2021 年 5 月 5 日

インターフェイスの再設計

使いやすく、Cloud Manager のユーザインターフェイスの最新のルックアンドフィールに合わせて、Replication タブが再設計されました。



SnapCenter サービス

2021 年 12 月 21 日

Apache log4j の脆弱性に対する修正

SnapCenter サービス 1.0.1 をアップグレードすると、バージョン 2.9.1 から 2.17 に Apache log4j がアップグレードされ、次の脆弱性が解決されます： CVE-20244228、CVE-2012-4104、および CVE-2016-45105。

SnapCenter サービスクラスタは最新バージョンに自動更新される必要があります。SnapCenter サービス UI に、クラスタが 1.0.1.1251 以降であることを確認する必要があります。

リリースノートインデックス

個々のサービスごとにリリースノートの全セットを表示します。

ストレージ

- ["Azure NetApp Files の特長"](#)
- ["ONTAP 対応の Amazon FSX"](#)
- [Cloud Volumes ONTAP](#)
 - ["Cloud Volumes ONTAP のリリースノート"](#)
 - ["Cloud Manager での Cloud Volumes ONTAP 管理に関するリリースノート"](#)
- ["Cloud Volumes Service for Google Cloud"](#)
- ["Kubernetes クラスター"](#)
- ["オンプレミスの ONTAP クラスター"](#)

データサービス

- ["AppTemplate \(アプリケーションテンプレート\) "](#)
- ["クラウドバックアップ"](#)
- ["クラウドデータの意味"](#)
- ["Cloud Sync"](#)
- ["クラウド階層化"](#)
- ["コンピューティング"](#)
- ["グローバルファイルキャッシュ"](#)
- ["監視"](#)
- ["ランサムウェア"](#)
- ["レプリケーション"](#)
- ["SnapCenter サービス"](#)

管理

- ["管理を設定します"](#)

Copyright Information

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S. No part of this document covered by copyright may be reproduced in any form or by any means-graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or storage in an electronic retrieval system-without prior written permission of the copyright owner.

Software derived from copyrighted NetApp material is subject to the following license and disclaimer:

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY NETAPP "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL NETAPP BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetApp reserves the right to change any products described herein at any time, and without notice. NetApp assumes no responsibility or liability arising from the use of products described herein, except as expressly agreed to in writing by NetApp. The use or purchase of this product does not convey a license under any patent rights, trademark rights, or any other intellectual property rights of NetApp.

The product described in this manual may be protected by one or more U.S. patents, foreign patents, or pending applications.

RESTRICTED RIGHTS LEGEND: Use, duplication, or disclosure by the government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.277-7103 (October 1988) and FAR 52-227-19 (June 1987).

Trademark Information

NETAPP, the NETAPP logo, and the marks listed at <http://www.netapp.com/TM> are trademarks of NetApp, Inc. Other company and product names may be trademarks of their respective owners.